令和７年度 大阪府立高津高等学校 第１回学校運営協議会 会議録

日　時： 令和７年６月２３日（月）16 時 15 分～17 時 22 分
場　所： 本校校長室
出席者： 委員長　森田　英嗣（大阪教育大学）
委　員　古門　真一（本校同窓会副会長）
竹村　伍郎（ＮＰＯ法人　まち・すまいづくり）
山崎　晃昭（近畿大学）
新﨑　国広（ふくとし教育の実践研究所 SOLA 主宰）　＜オンライン参加＞
事務局　寺本　圭一（校長）、島　　和広（教頭）、大谷　則明（事務長）、
中原　章太（首席）、井濵　友輔（首席）、尾﨑知佐子（教諭）、
東　　正浩（記録係）

１．学校長挨拶
お忙しい中ご参加いただきありがとうございます。先ほど公開授業を見学いただきました。後ほどご意見をいただければと思います。昨年度の進学実績が過去一番となり、先生方の取り組みが形になってきております。引き続き充実、発展させていきたいと思っておりますので本日は忌憚のないご意見をよろしくお願いします。

島教頭より出席者紹介

森田委員長
校長先生から今年度の計画等についてご説明いただき、すべて終了しましたら質疑応答という形で進めてまいりますのでよろしくお願いします。

２．学校からの説明（寺本校長より）
PTA 広報「ゆうゆう」が大阪府の PTA 協議会で最優秀をいただき先日表彰を受けました。本年度の学校案内も添えておりますので後でご覧ください。

① 令和６年度の振り返りについて
進学実績について、令和７年３月卒業生（７７期生）の難関国公立大学（京都・大阪・神戸）の合格者数が現役６２名、既卒が１０名で計７２名となり昨年度を超えた。また現役生の合格も過去最高となった。国公立大学への現役合格者数も１９５名で昨年より２３名増加した。進学者は１８３名。
取組としては指導力の向上（教職員向け学校教育自己診断）の項目が肯定率９５％で昨年度より１ポイント増であった。またＬＧＨ（リーディングギガハイスクール）や初任者研修を含む公開授業を行うことで指導技術の向上が図られていると思われる。
生徒の学力に直接関わる講習・補習の充実として土曜講習、１年生の学習合宿があげられ、自習室の利用数も増加しており、地道な取り組みが功を奏している。

② 令和７年度の取組
今年度の新規の取組として英語能力の向上をめざし、今年度の入学生から「TOFUL Junior」

という統一試験を受験することにした。（GLHS１０校としての取組）１年次４月、２年次１２月～１月の２回受験する。中学時に英検１級、準１級を取得すれば入試の英語が満点となるので、中学時に英検２級以上を取得した生徒が以降英語を勉強しないという実状がある。先日の受験結果として、英検２級取得の生徒にかなりの実力の差があったことが判明した。英語の授業のさらなる充実が求められる。

大阪府姉妹校交流支援事業について、本校では台湾第一高級中学、台湾女子高級中学、フィリピンアンジェリカム高校と提携している。交流校がない学校はこれから締結していくことなる。いずれにしても教員２名分最大５０万円まで旅費が出る。

以上が新規の取組である。以下は資料の通りでこれまでの取組と同様で目標・数値を高く設定している。

③ キャリア教育の充実

学年が進路と提携して学年集会をタイムリーに開き、生徒のモチベーションの維持、向上を行っている。集会の中で担当者が常に働きかけをしている状況がある。

④ 自治会活動について

昨年文化祭にて Cookhouse との共同開発をしたパンを販売した。本年も引き続きおいしいパンを販売したい。自治会、部活動のキャラバン隊（ボランティア活動）の充実、また相談しやすい環境等の数値が上昇している。

⑤ 教職員の意識の向上と学校運営体制の確立

メールを利用しているので情報は行きわたりやすく７５％以上の肯定率であるが、何か他に必要なものがあるかと思っている。学校ＰＲ、開かれた学校づくりに関しては９５％ということで積極的に参画している。また公開授業等は増えており、授業力の向上については肯定率が高いが、ミドルリーダー育成、人材育成については研修が必要であると考えている。

働き方改革について、昨年度は５％減を達成することができた。

⑥ ＳＳＨについて

第４期の３年目となり、本年中間ヒアリングが予定されている。ＳＳＨの仕組みが、令和９年度から変更になり期間が短くなる。本校を主体として小・中学校の裾野を広げる意味で研究交流会、他校との交流を実施していく。

⑦ 令和１０年度以降の入学者選抜に係る「学校特色枠」について

別紙の方針が３月に公表されている。現行の入試制度は平成２８年度入学者選抜から導入され１０年を経た。

現行の理念では各校がアドミッションポリシーを作成し、それに合致した生徒を求めることができる。

変更内容として学校特色枠があり、総募集人員の１０％から５０％まで合格させることができる。また各校において「面接」や「プレゼンテーション」を翌日等に行うことも可能であり、令和７年度中に公表する必要がある。一般選抜については３月１日が基準となり、第２志望校への出願を可能とする。英語資格の活用の読み替え率についても変更がある。

３．質疑応答

A：学校特色枠について必ず行い、１０％はとるということか。

B：結果として０でもよいが、設定はする必要がある。

A：学力テストが基本となるが別途本校でテストを作成して実施するのか。

B：１日めの学力テストの点数を利用する。新たな何かを翌日に行うことは考えていない。
他の文理学科９校と情報交換していく。

C：GL１０校はよいが、他校は大変だと思う。

B：定員割れすれば全員合格になるので設定した意味がなくなる。第２志望校へ出願できるので文理学科が不合格になった場合、第２志望校に行ける可能性がある。

C：倍率の下がっている学校が生徒を集められるチャンスができた。
１年生の職場訪問だが最近どういうところに行っているのか。特色ある会社も出てきているが。会社の入れ替えについてはどうか。

D：６３職場に分かれ訪問する。生徒も池田から熊取まで広範囲から登校している。

C：スタートアップ企業、コンサル系が集まってきている。ベンチャーもある。見直しはかけておられると思うが。

D：スタートアップ企業やベンチャーは少ない。基本は昨年度を踏襲して新規のところはアポをとって新規開拓を行っている。従業員もある程度いて名前を知っている企業が多い。

E：働くとは何かというコンセプトがあり、希望の会社に行くのではなくランダムにあてている。

D：生徒は会社での質問を精査しているところ。

C：カテゴリー的に入れ替え等があれば、推薦させてもらうこともできる。

A：発表会があるのか。

D：７月１０日（木）にクラス発表し、１１日（金）に代表班が阿倍野区民センターで発表する。

A：「働くとは何か」という問いで昔ながらのことをやっていればよいのではない。変化をさせることで応える。

C：変化で姿勢を見せられる、また伝統を守っているところも大事。

E：進路指導主事に伝えておきます。開拓に困っているので。

F：ＳＳＨが変わるという話があるが万が一選ばれないと予算減りますね。
今度の制度がわかるのはいつになるか。

B：５００万円ほど減る。令和９年度から新制度になるが、期が違う学校がいろいろあるので８年度にはわかるのではないか。

A：制度について意見を述べることはできるのか。

B：制度についてはトップダウンなので言えない。

A：５００万円は大きい。年数も含めて全体として縮小方向なのだろう。新しいものが始まることはないか。

B：本校は発展期だが先導期でより深い取り組みをする学校には予算を含めて特別に支援するようだ。

F：姉妹校の交流支援について１名あたり１０万円だがこれで行けるのか。

B：全額ではないが、生徒の負担は減る。アメリカやオーストラリアに行く学校もある。
今まではＳＳＨから５～７万円程度の支援だったが１０万円となる。

A：姉妹校の定義とは、継続的に交流するということでよいのか。中身の規定は。
B：英語で交流することが基本となっている。以前から継続し、今後も交流するので認められている。提携書があればよい。
F：生徒の支援が１名につき１０万円、教員が２名までで最大５０万円。
B：台湾ならば５０万円あれば引率２名分で十分。
G：フィリピンのアンジェリカム高校ともＳＳＨでの交流か。
B：サイエンスツアーとかオンライン交流で一緒にやっている。サイエンスツアーだけでなく、フィリピンに行くなど新たな交流も検討している。
G：語学の方では何かされているか。
B：語学だけではないが、グローバルリーダー育成研修としてシンガポールに２０人行っている。
F：シンガポールは本校独自でサンフランシスコはＧＬ１０校共通で本校から３人まで。
D：国内では KITEC（カイテック）、GULS（ガルズ）というネイティブの方との英語漬けの交流を行っている。
G：シンガポールに行く教員の旅費がかかるのではないか。ＳＳＨからも出せないとのことで予算がうまくまわればいいが。
A：姉妹校と交流しているのはどのくらいなのか。
B：国際系や文理学科、英語科があるところはすでに行っている。募集しても希望者がいない学校もあると聞いている。実際、姉妹校と提携するまでに数年交流して信頼関係を築くことが必要。
G：私学無償化について、府立全体で私学に流れている。本校でもこの３月の入試で影響があったかと思う。進学実績も過去最高であり、先生方もご苦労だったが府にどうにかしてほしい。１年生を担当されていて何か違いがあるか。
G：入試の結果を分析したが、学力層に今までと隔たりはなかった。チャレンジ枠と言われる層が私学に流れたか。入試やスタディサポートの結果を見ても学力層はそれほど変わっていない。１年生の生徒からも私学専願が多かったと聞いている。
H：前任校でも近隣中学校から来ない年もあった。１２月の段階で私学に決まっている状況がある。中学校側としては３年連続定員割れで、今後なくなるであろう高校に進学させたくないという思いもあるようだ。
C：私学の方も制度があり、経営が苦しいようだ。授業料等が高くても入学者があるのに無償化のために逆作用していることもある。
ＳＳＨでサイエンスラボがあるが地域の小・中学校にレクチャーしているのか。
B：昨年も１２月に行い、実験等に興味をもったようで好評であった。小学校の時から高津ファンをつくっていきたい。
C：小学校に行って実験等するということは考えていないのか。
B：中学校では出前授業を行っているが設備の関係で実験まではなかなかできない。今後は中学校だけでなく小学校にも広報が必要だと考えている。
F：マンションが増え、子どもが増えている小学校がある。中学校や高校をめあてに来られる方が多いようだ。小学校の増築もある。
I：中央区、天王寺区がすごく増えている。
F：知り合いの会社でも上町台地で１８本のマンション建設の計画がある。値段も高いようだ。パンクしている小学校もある。

I：９学区制の時の５学区はもともと上位層が中学校段階で中高連携の私立学校に行くことも多い。立地のことも関係する。

E：ここ２年は八尾、東大阪の生徒が半減している。

D：河内長野や富田林、狭山といった遠方からの生徒が増加している。

I：塾の影響もあり、どこの高校を推薦するかもあるようだ。

J：高校の無償化で寝屋川高校が定員割れするということがあった。これからの公教育を府はどのように考えているのか疑問に思っている。先生方の働き方改革についてプラスの面もあるが生徒に関わりたい時に関われないというジレンマもあるのではないか。そういう時間をストレスなく減らすことはできているか。

B：生徒と向き合う時間を何とか確保している。クラスの生徒の面談も朝の短時間や昼休みに行っている。定時の中で隙間の時間を見つけて行っており教員はとても努力している。

J：先生方のご苦労を感じるところだ。

A：高津高校には公立高校のリーダーの役割があると感じる。国際交流もたくさんの経験があり、リーダーシップをとるような立場になりうる。授業向上の取組や成果もあり、ノウハウもある。これで協議を終わりたいと思います。

B：先生方の取組もやればやるほど、はねかえってくるので時間削減につながっていないが実績もあがっているので、ていねいに活動を続けていく。削減をしていくところを見出していきたい。入学者の制度の変更もあるが高津らしさを生かして今後とも頑張っていきたい。ありがとうございました。